



新潟県作業療法士会ニュース

朱 鷺
TOKI

No. 4

変わり続けることの大切さ、そして大変さ
～理想と現実の不協和音の目々～

新潟リハビリテーション大学 北上 守 俊

私は表現力が貧困で、かたい文章しか書けない人間であり、そのようなものが巻頭言の執筆をさせていただくのは誠に恐縮である。この度の巻頭言のご依頼をくださった方の期待に少しでも応えられればと思うが懸念する点もある。書き始めの文面もなかなかまとまらず、パソコンと睨めっこをする日々が続いたが、羞恥心を捨て、今感じていることを素直に書き綴りたいと思う。

近年、作業療法の中で特に見聞きするテーマとして“生活行為向上マネジメントの活用促進”、“地域包括ケアシステムの構築”、“認知症のある人への支援”、“臨床実習の在り方”が思い浮かぶ（まだまだたくさんあるが）。さらに、2018年4月に稀に見る医療保険と介護保険、そして障害福祉制度の3つの大きな制度の同時改定も控えており、これから作業療法の現場も変化していくことが予想される。私自身それらの目まぐるしい変化や前述したテーマに関する状況に追いつけていない部分が多く、日々目の前の業務に没頭し、毎日が過ぎ去っていく。自身に活を入れるために研修会に参加し、作業療法関連の本を読み、新潟県そして全国の秀抜で魅力的な作業療法士との出会いに勇気づけられ、自身で自分のエンジンをかけるように意識をしている。

研修会に参加してよく感じることは、対象児・者のニーズの多様化や個別性の尊重、作業療法関連の制度の制限などにより、作業療法士の専門領域のみで対象児・者やそのご家族を支援していくことには限界があり、医療・福祉・行政など所属施設内外の専門職と協力し合うことが、これからさらに求められることを痛感する。また、医療と介護、そして障害福祉のシームレスなサービス提供は前述した同時改定でも大きな目玉の1つとされている。それらの中で作業療法士がどのような成果や効果を出せるのかが急務の課題となっており、今後益々県士会員の一体感が問われているとも感じる。

最後に、作業療法の教育現場におけるトピックスを記す。障がいのあるまたは疑われる学生への作業療法教育についてである。大学教員として新人の私がこのような壮大なテーマについて語るのに戸惑いはあるが、県士会員の皆様に少しでも現状をご理解いただければと思い、少し述べさせていただく。全国的に精神障がいや発達障がいなどの障がいを患った学生が作業療法の教育現場に入ることはいまや少ない時代となっている。障害者差別解消法の施行（2016年4月）により、障がい学生に対する合理的配慮が義務化（私立大学は努力義務）された。その影響もあり、障がい学生に対し大学が合理的配慮の提供を行うことが求められている。だが、ここで問題になるのが、障がいの診断はついていないが、明らかに学校生活の中で人間関係や学業面などでつまずきが生じ、障がいの疑いがある学生への対応である。学生本人もご家族もつまずきの原因が分からず、釈然としない状況が続くことは双方ともに苦しい。私は、学生がここまで辛い思いをして、このまま作業療法士を目指すことは本当に幸せなのだろうか、また、もし作業療法士として働き出した時、そこで出会う対象児・者を幸せに出来るのだろうかなど、余計なお世話かもしれないが、いろんな思いが錯綜する。すぐに解決出来る話ではなく、正解はないのかもしれないが、皆が少しでも幸せに過ごせるような糸口を今後も模索していきたいと思う。

— 追 悼 —

間牧子さんを偲んで
～牧ちゃんは強運だった!?!～

渡 辺 豊

間牧子さんが平成29年2月16日亡くなりました。

今日は牧ちゃんと呼ばせてもらいます。7月31日に水越夫妻のお宅での「あさひ会」。楽しい時間を過ごしました。10月20日に間家で旦那さんとも交えて手料理を頂きました。彼女はかすれ声で時々疲れた表情はするものの元気の様子でした（私にはそう見えました）。

最後に会ったのは、亡くなる前日の2月15日。

危篤の報を聞き病院の緩和病棟に駆けつけました。

こんなに早く牧ちゃんとお別れするとは思っていませんでした。

牧ちゃんに初めて会ったのは、私が信楽園病院に就職した昭和58年の春。彼女は横浜市立大学病院での3年の臨床を経て故郷新潟に帰ってきて信楽園病院のOT室を開設して6年目でした。そのOT室はOT二人と患者さんが5-6人入るといっばいになるような広さでCVAや神経難病の患者さんに対して皮細工、籐細工、貼り絵などの作業活動を中心として提供していました。OT室には付添いさんたちもいて、作業活動と会話を楽しむようなとても賑やかな空間でした。その中心に牧ちゃんがありました。

彼女はお医者さんや看護婦さんの信頼を得ており、OTの進め方、家族指導なども含めてキビキビと仕事をしていました。職場の会議でも彼女の一言で方向性がつけられることも度々ありました。基本を抑えながらもその発想がユニークで皆が納得するものでした。その過程で何故か牧ちゃんは特別な人だと思ってしまい徐々に「特別だ→強運だ」の図式が勝手にできてしまったようです。発言はフランクで、飾らないストレートな物言いで毒舌ともいわれることもありましたが、厳しくも愛があり人の心をつかんで離さない人でした。

人懐っこく、気遣いができて面倒見がよい。彼女と接したことのある県内のOTは皆同じように感じているのではないのでしょうか？入職当初は「間先生」と呼んでいた私も彼女の人柄に甘えて「牧ちゃん」に呼び方が変わっていったのです。

そんな彼女から癌だと聞かされた時はビックリもしましたが、運のいい彼女ならきっと癌に負けずに絶対戻ってくると勝手に思い込んでいました。牧ちゃんは気遣いをしすぎ、面倒を見すぎたのです。その大きな愛をみんなに分け与えることで自分の運を使い果たしてしまったように思えます。

牧ちゃん、これまでほんとうにありがとうございました。どうかこれからもずっと、我々をお見守りください。

心よりご冥福をお祈りいたします。合掌。



施設紹介

「介護老人保健施設 高田の郷」

田 中 晴 香

当施設は日本三大夜桜のひとつである高田公園にほど近い、県立中央病院や県立看護大学などの医療福祉関係機関が多く所在する地域にあります。平成9年4月に開設され、この春に20年目を迎えました。開設前を知る利用者さん達は「こちら辺は全部田んぼだったのに、立派なところになったものだね～」とよく仰っています。

リハビリ職員は、PT2名・OT3名・ST1名が常勤であります。私自身はこの法人に務めてまだ1年程度なのですが、日々の臨床での出来事や相談事（時には私生活の事も…）を気軽に意見交換し合える、とても雰囲気の良い職場です。それぞれの専門性からの知見で話し合えるので、良い刺激をたくさん受けています。

入所は一般棟と認知症専門棟があり、OTは個別訓練の他に専門棟で季節の壁紙作りを企画・運営しています。取り組みの中で交流や助け合いが生まれたり、利用者さんの新たな一面が見られたりしています。また、デイケアでも生活行為向上マネジメントの視点を勉強しながら、出来るだけ利用者さん主体で取り組める支援方法を模索しているところです。

これまでの取り組みを踏まえ、20年目を迎えます地域に開かれた施設となっていけるよう、「高田の郷らしさ」を大切に頑張っていきたいと思っています。



江風苑リハビリセンター100

浅 野 由 紀

こんにちは！江風苑リハビリセンター100です。

当センターは新潟市北区（旧豊栄市）にある介護老人保健施設江風苑の通所リハビリテーションの定員を100名に増員した事業所です。

職員はPT8名、OT3名、ST1名（非常勤）を配置しています。私以外は若い職員が多く、パソコンが動かず困っていてもサラッと解決してくれたり、往年のアイドルを知らないなどジェネレーションギャップをひしひしと感じながらも楽しく業務を行っています。

そんな当センターの特色は、ご利用者様にその日行うプログラムを自主的に選択して行っていただけるように取り組んでいるところです。

私たちが行う個別的なリハビリはもちろん、料理・園芸・畑（なんと手作りの田んぼまであります！自然豊かなのがウリです!!）、カラオケ、脳トレ、体操教室などご利用者様がやりたいことを選択し、「自分でできることは自分で」をモットーに動いていただけるようにしています。

まだまだ去年の10月に開設したばかりのため、職員も日々試行錯誤し成長している事業所です。今後も皆様に楽しんでいただけるようなプログラムを提供していけるよう、職員一同頑張っていきたいと思っています。



第14回新潟県作業療法学会のご案内

学会運営委員会担当理事 高 頭 美恵子

県学会は例年2日間開催を行ってきましたが、今年度は全国研修会が12月新潟開催されるため、1日のみとなります。場所も長岡市から新潟市に変更することになりました。

今年度のテーマは、「つなげる・つながる」作業療法の実践～シームレスな作業療法の提供を目指して～、地域包括ケアシステムの中で作業療法士が期待される役割を果たしていくためには、作業療法が途切れなく提供されることがとても重要です。昨年は他職種連携について理解を深めました。そして今年度は、作業療法士同志が領域・所属を超え、地域の中でどのように連携すればよいのか真剣に考え、それを実践していくことが急務であると考え、学会を企画致しました。また、今年度は若いOTの皆様にと、スキルアップ講座も企画致しました。

下記学会概要になります。詳細は県士会ホームページをご覧ください。

記

- 1.会 期：平成29年9月9日（土） 10：00～17：00（受付9：20開始）
- 2.テーマ：「つなげる・つながる」作業療法の実践 ～シームレスな作業療法の提供を目指して～
- 3.会 場：新潟ユニゾンプラザ（大会議室、小会議室）
- 4.参加申し込み方法：平成29年7月1日（土）から下記方法にて受け付け開始

新潟県作業療法士会ホームページ内または、下記の「**学会申込フォーム**」よりお申し込み下さい。

第14回新潟県作業療法学会参加申込専用アドレス 及び QRコード

<https://goo.gl/forms/vn4l9qPco25oDHhx2>



5.問合わせ先：

演題募集に関する問い合わせは、niigataotgakkai14@gmail.com

その他、学会に関する問い合わせは、niigataotgakkai@gmail.com

いずれも、件名『学会問い合わせ』とご記入下さい。

日本作業療法士協会 全国研修会in新潟 開催決定！

新潟を楽しむ！

この時期の新潟は
おいしいものがたくさん
あります

施設を楽しむ！

新潟を代表する
朱鷺メッセで研修会を
楽しみましょう

第61回
全国研修会
in新潟
12月9日10日
朱鷺メッセ

研修会を楽しむ！

20名を超える
有名講師陣を迎え
最先端の知識を
学びましょう

懇親会を楽しむ！

新潟の地酒で冬の味覚を
楽しみましょう
OT同士の語らいは
盛り上がること
間違いなし

日 時：12月9日10日
場 所：朱鷺メッセ
参加費：10000円(予定)
懇親会費：5000円(予定)

めったにない地元開催です。
スケジュールを調整し参加を
検討してみてください。

懇親会の参加費を**グツ**と
押えました。

多くの方の参加をお願いします。

災害対策委員会って何？

今後、全3回シリーズで災害医療について広報していきます。また、この掲載と平行してFacebookで新潟県作業療法士会の災害対策委員会を立ち上げ情報発信を行っていきますのでそちらもよろしくお願いします。

災害時、例えばあなたは地震の時どんな行動をしますか？



自分や家族の安否を心配することでしょう？

では、医療職仕事としてはどうでしょうか？被災したのであれば、まず職場を確認するでしょうか？

被災していないのであれば近親者や知っている誰かを心配するのではないのでしょうか？

今までの度重なる災害時、自分でもできることはないだろうか？と考えたことはありませんか？



でも、何をしたらいいのかわからない。誰に相談すればいいかわからない。職場の迷惑になるのかも？危険なところでの活動や一人での活動に不安がある。長期にわたる活動で負担が大きいなど様々な不安があると思います。

災害時、自分は何が出来て何をすればいいのか平時から準備することが大切ではないでしょうか？

災害医療を学ぶことは、医療職として災害について学ぶ以上に一人の人間として自分自身や身近な方

の身を守ることにつながることでもあると考えています。

災害時の医療では、普段は機能している救急体制などが甚大な災害により、人・物理的すべてにおいて余裕がなくなる状態になります。この事への支援として、医療体制の立て直す為に災害派遣医療チーム（DMAT）や広域災害・救急医療情報システム（EMIS）といった支援があります。

さらに災害の時期が経過し、避難所設置から仮設住宅までへ変化する中で、「被災者の健康を維持するために避難所の質の向上を目指す」ことを目的として、日本医師会災害医療チーム（JMAT）や大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会（JRAT）などの活動が必要となってきます。作業療法士としては、この時期での活動が主な活動時期になります。

災害対策委員会は、協会・県士会の災害ボランティアにおいて、災害支援のマッチングや調整を行うことが役割です。

具体的には ①現地の被災状況および支援状況を把握

②被災地本部や現地市町村、各関係機関との連絡・調整

③災害支援ボランティアへの具体的な活動指示

の3点です。

今年度は、県内においても平時から災害発生時までの体制整備を強化するため更なる活動展開をしていくことを計画しています。

今回紹介した内容で知ってみたいと興味・関心が湧いた方、協力できる範囲で行ってみたいと思う方、しっかりと学んでいきたい方などお声掛けいただければと思います。

できるだけ大きな輪をつくるのが災害時の支援体制や防災体制に必要不可欠です。

次回は、今まで新潟県士会が行ってきた災害への活動内容や県内で災害医療について学べる機会、協会の災害ボランティアについて紹介します。

連絡先

新潟県作業療法士会 災害対策員長

岩室リハビリテーション病院 齊藤裕久

TEL：0256-82-4100（病院 代表番号）

E-Mail：niigata.saigai@gmail.com

Facebookページ：新潟県作業療法士会 災害対策員会

入会、会員情報変更の届けはお早めに

まだ、入会届を出されていない方、所属先の変更があった方は、早急に事務局に届け出て下さい。

ご注意!!

入会届…郵送のみ可

会員情報変更…FAX可

平成28年度 第8回理事会議事録

日 時：平成29年3月4日（土）12：00～16：00

会 場：燕労災病院 大会議室

出席者：横田、貝淵、児玉、四方、石井、伊東、尾崎、
片桐、菊入、北上、佐藤、高頭、能村、松岡、
松本、村山、吉井（以上理事）、水越、渡辺
（以上監事）、本間（書記）

○会員管理：承認後、会員数942名（休会67名含む）

〈協議事項〉

○法人移行・新定款変更案について

- ・会員について、組織力向上のためにも協会員＝士会員とする。県にも確認済み。
- ・第13条(3)について：今後、役員報酬が必要となってくるのではないかと（無報酬のままで後進が得られるか）検討していく必要がある。
- ・第29条について：第13条(3)と相反するのではないかと？ →第13条(3)は定款で述べておかなければならない。報酬は適切な範囲での費用弁償とする。これに伴い役員報酬規程を作成する ⇒以上、定款案承認

○平成29年度県士会事業計画及び予算案について

各委員会の事業計画・予算案を精査した。⇒承認

〈報告事項〉

○地域包括ケアシステム推進委員（村山理事）

- ・地域の茶の間へのOTの定期的な関与について
地域の茶の間の代表河田氏へ公開講座の講師を依頼するに当たり、担当委員長が茶の間に足繁く通い、河田氏よりOTの専門性・有用性を見出されたところから、茶の間へのOT派遣の話が浮上した。
- ・1回目の派遣が終了した。参加者よりアドバイスの難しさを感じたとの声が多く聞かれたが、結果を出していないといけない。横の情報交換・共有をどうしていくかは今後の検討事項。新潟市は今年度中に茶の間を順次開催していき、OTの派遣予算も上げてある。東区には他専門職も居る。茶の間に生活支援コーディネーターとOTとのつながりを作っていくことも必要。

○会長より、47委員会からの情報提供があった。

以上

平成29年度 定期総会 議事録

日 時：平成29年5月28日（日）11:23～12:50

場 所：県央地域地場産業振興センターリサーチコア
会員総数：942名

出席会員数：722名（うち委任状出席654名）

●議事の経過

- ・議長に厚生連柏崎医療センター 横田剛氏、副議長に新潟中央病院 青柳美保氏を選任した。
- ・定足数報告、出席会員数722名（うち出席者数68名、委任状出席654名）であり、総会は定数を満たし有効に成立した旨を告げた後、議案の審議に入った。

●報告事項

平成29年度事業計画および当初予算の件

- ・会長 横田剛氏より平成29年事業計画報告および当初予算の件について議案書に沿って事業報告の説明がなされた。
- ・事務局。理事会開催回数を減。効率的運営を行っていく。
- ・財務部。さくら会計の助言を受け財務管理を進めていく。
- ・新潟県作業療法学会は、9月9日に開催予定。日本作業療法士協会主催の障害福祉領域OTカンファレンスが新潟にて同日開催されるため、1日のみの開催とした。
- ・学術誌編集委員会。積極的な論文投稿をお願いしたい。
- ・現職者共通研修委員会。現職者共通研修会（事例検討・報告）でMTDLP実践者研修の事例検討に読替え可能となった。
- ・地域向け広報委員会（高校生OT職場体験担当）養成校の学生は職場体験を行った人が多く、進路を考えている高校生の後押しになればよい。中学生や保護者については次年度以降の課題としていきたい。
- ・生活行為向上マネジメントや発達分野など国でOT活用の準備が進められている。
- ・発達分野。全国的に見ても進行状況の差が大きく、県内では携わるOTが少ないため負担が大きくなっている。分野を問わず全体で対応していきたい。
- ・精神分野地域移行推進委員会。支援チームがしっかりしており他県に比べて対応が進んでいる。
- ・福祉用具対策委員会。ITサポートに関する研修を継続しているため活用してほしい。協会が生活行為工夫モデル事業として福祉用具や自助具の紹介事例集を作成し、全国展開していく方向。説明会開催予定。
- ・地域包括ケアシステム推進事業部。県内37支部で自治体ごとに問題解決できるよう顔の見える関係を作る。新潟市からは介護基金研修費の助成金をいただいている。
- ・災害対策委員会。災害経験した県として、認知症や発達障害の方に対する災害時の配慮の在り方をマニュアル化したいと考えている。
- ・特設委員会・自動車運転対策。OT協会全国研修会を立ち上げた。自動車運転対策については、県内には研究会があり先駆的に取り組んでいる。
- ・全国研修会は12月に新潟にて開催予定。
- ・引き続き財務部長 吉井真理氏より平成29年度予算書について報告があった。
- ・質疑・意見。ながおか生協診療所 早川昭氏より
①理事会の回数減だが、情報共有できているのか
②MTDLPは臨床実習でどの程度利用されているか。文章を書いたり複雑で臨床で実施されていないのか
③単年度の予算が赤字予算になっていると指摘があった。

- ・①会長より、現状ではメールにて情報共有し、それで難しければ電話で対応しているが、メールの量は膨大。②菊入理事より、昨年度アンケート調査を行い今年度取りまとめで会員に報告予定と説明あり。
- ③会長より、以前は収入と繰り越し金額が同額だった為、赤字予算にて継続してきたが、バランスがとれて来た為、赤字予算は今年度で最後とし、繰越金を残しながら運営していきたい。交通費の支出も大きい為、交通費を削減し赤字を減らしていきたい。

●決議事項

第1号議案 平成28年度事業報告および決算報告の件

- ・会長 横田剛氏より、平成28年度事業報告および決算報告の件について一括報告。後、議案書に沿った事業報告。
- ・公開講座の講師 河田桂子氏との縁により新潟市で地域の茶の間の実施が決まった。
- ・認知症はPT・STで対応している県がある。新潟ではOTが存在するよう全OTが対応できるようにしたい。
- ・引き続き財務部長 吉井真理氏より平成28年度決算について報告があった。
- ・引き続き監事監査 渡辺豊氏より監事監査報告があった。
- ・事業報告について質疑・意見を求めたが特になく、会長より公益社団法人への移行について説明が行われた。
- ・説明対し、ながおか生協診療所 早川昭氏より①公益社団法人への移行は適切だと思うが組織率の他にどのようなところをチェックされるのか②財務状況についてさくら会計事務所から指導はないのかと質問あり。
- ・会長より①については事業計画が相応しいか、定款（新定款第4条）に合っているか審議会にて確認されると返答する。②については赤字予算にならないよう指導があったと返答する。また今後は研修会等の経費は公益事業として財務上位置づけていくと返答する。
- ・決算報告について質疑・意見を求めたが特にはなかった。
- ・事業報告、決算報告は全会一致にて承認された。

第2号議案 定款変更（案）の件

- ・事務局長 片桐貴利氏より定款変更（案）について説明。
- ・質疑・意見を求めた。上越医療センター病院 竹田恵氏より定款の中に協会員であると記載されているが、協会と県士会で事務手続きが別であるため認識が得られないのではないか。PTのように一括支払いにするなど検討してほしいと意見あり。
- ・会長より、協会に一括して支払い協会から県士会に戻すというシステムで静岡県士会が行っているが、定款の変更が必要となるため、次年度以降に検討していくと返答する。
- ・定款変更（案）について正会員数の3/4に達して

いるため、全会一致にて承認された。

第3号議案 役員報酬規程 新設の件

- ・事務局長 片桐貴利氏より役員報酬規程新設の説明。
- ・質疑・意見。ながおか生協診療所 早川昭氏より他団体でも報酬は全くないのか質問あり。
- ・会長より、無報酬の団体の方が少ないため検討もしたが、財務状況と規程を整備し公益法人への移行を進めるために従来どおり無報酬としている。しかし今後の財務状況を見て報酬については検討していきたいと返答する。

第4号議案 その他

- ・副議長によりその他の審議項目について募ったが、審議事項なし。
- 以上をもって、副議長より本総会の議事を終了した旨を述べ、12時50分閉会を宣言した。 以上

平成29年度 第1回理事会議事録

日 時：平成29年5月28日（日）14:30～17:00

会 場：燕三条地場産業振興センターリサーチコア

出席者：横田、四方、石井、伊東、一ノ本、尾崎、菊入、北上、児玉、小山、佐藤、高頭、能村、松岡、松本、村山、吉井、片桐（以上理事）、水越、渡辺（以上監事）、本間（書記）

○会員管理：承認後、会員数954名（休会58名含む）
強制退会1名手続きを。

○各理事より担当委員会の事業進捗状況の報告があった。

○会長より、4月22日～23日開催の47都道府県委員会報告が資料を基に行われ、併せて各委員会に今年度の事業運営について提案がなされた。

・全体を通して、士会の支部化(ブロック化)が避けられない実態が浮かび上がった。→WG立ち上げ検討を。

・福祉用具。生活行為工夫情報モデル報告書の活用を。

・排尿自立指導料。OTの職名が追加される。県内周知を。

・発達。地域支援、認知症同様の全権での組織化が必要。

・災害。OT協会との連動はまだ先か。可のであれば各障害者のための支援マニュアルを作成してほしい。

・MTDLP。OT以外へのツール利用、研修資料使用が認められた。OTには必須なツール。研修スタイル、確認を。

・地域包括システム。県内3市が手上げ…フォローを!!県内に広く情報収集、相談・支援の関係づくりを!!!

・認知症。当座、アップデート研修の充実を。

・自動車。新潟は先進的。県内広報展開を。

・協会パイロット。「暮らしの達人養成講座プログラム」県内展開の参考に。

・事務局。組織強化…協会－士会との連携強化模索を。 以上

SAKAimed

急性期からの＊
ハンドセラピーを
お手伝いします。

＊ スプリント ＊

酒井医療株式会社
新潟営業所
Tel: 025-278-4777
www.sakaimed.co.jp

福祉・労災指定
各種車椅子・座位保持装置・ベッド
コミュニケーションエイド・福祉機器一般
介護保険レンタル・介護住宅リフォーム相談

(株) G・T・B
(オーエックス新越)

〒956-0017
新潟県新潟市秋葉区あおば通2丁目28-27
TEL 0250-25-2626 FAX 0250-25-7710
http://www.gtb-niigata.jp/

義肢・装具・介護レンタル

ご相談ご用命は弊社にお任せ下さい。

社団法人 日本義肢協会登録・中部125号



(株)田村義肢製作所

〒950-1151 新潟市中央区湖南21番地11

TEL 025 281-0303

FAX 025 281-0339



介護用品、レンタル・販売
リハビリ機器、医療機器販売

(株)いわしや
悠久堂医科器械店

本 社 TEL 0258-47-1848

新潟営業所 TEL 025-284-6866

<協力賛助会員>

酒井医療株式会社新潟営業所	〒950-0855	新潟市東区江南6-1-11	☎025-278-4777
田村義肢製作所	〒950-0911	新潟市中央区笹口2-10-16	☎025-245-0593
悠久堂医科器械(株)	〒940-2117	長岡市石動南町8-1	☎0258-47-1848
株式会社 G・T・B	〒956-0017	新潟市秋葉区あおば通2-28-27	☎0250-25-2626

新潟県作業療法士会事務局

〒950-0872

新潟市東区牡丹山3丁目1番11号 三森ビル301号

<TEL> 025-279-2083 <FAX> 025-384-0018

<E-mail> ot-niigata.toki4721@helen.ocn.ne.jp

No. 4 2017年7月5日発行

発行責任者：横 田 剛

編集責任者：尾 崎 生

発 行：一般社団法人新潟県作業療法士会広報部

〒950-0983 新潟市中央区神道寺2-5-1

総合リハビリテーションみどり病院

印 刷：株式会社 タ カ ヨ シ